

人権だより

2学期がスタートし、今年も人権学習に重点を置いた学習を進めています。

9月28日(木)、6年生を対象にした人権教室『ふれあい教室』の開級式をしました。

最初に、校長より挨拶をしました。次に、講師として堂本法義先生をお招きして講話を聴きました。冒頭に、「みる」には「見る、観る、看る、診る、視る、瞰る」のように様々な「みる」があり、6年生には人権学習をする上で、「観る(意識して目的を持ってみる)」「診る(身体的・精神的な状態をみる)」「視る(注意深く念入りにみる)」の「みる」を大切にしてほしいことを話して頂きました。また「学習した知識が活かされて生きる上での知恵になる」とも言われました。そしてアイスブレイクとして勝ち負けじゃんけんとあいこじゃんけんをしてそれぞれのじゃんけんの持つ意味を教えてくださいました。あいこじゃんでは、おたがいにあいこになるよう思いを寄せて行うことを教えてくださいました。



さらに、左の絵をみて、「目の不自由な人【C】がバスに乗ってきました、悪いのはだれか」ということを考えていきました。そしてこれは、社会の一面だけど、学級でのいじめにも置き換えられると言われました。その上で、差別問題を考える三原則として、①するを許さず、②されるを責めず、③傍観者なしと教えてくださいました。最後に「みんなが幸せになるためにしなければならないこと」として、【無関心から有関心へ、防波堤の自分から脱却し意見を言う自分へ、当たり前を疑う目、身近なところからの行動(3S:その場で、すぐに、素直に)、差別をしない差別をされない生き方を】というメッセージをいただきました。これからの学習でその都度確認できる大切な柱となりました。閉級式の発表会へ向け、また、卒業後の生き方につながるように今後学びを深めて行きます。

【児童の感想から】

- ・自分が学んだことは、頭の中に置いておくだけでなく、生活の中で活用していかなければならないことを学びました。家に帰っても今日まなんだことを絶対に忘れずに覚えておきたいです。
- ・差別やいじめの三原則「するを許さず、されるを責めず、傍観者はなし」という言葉が心に残りました。学級で起こっていることを見て見ぬふりをするのは良くなことだと思いました。
- ・私は勉強は苦手だけど、勉強をすることにより将来の選択肢を増やし生活でも生かせることを知りました。そして「こんなだからしょうがない」ではなく、もっとより良くするにはどうすればいいかを考え、みんなが幸せになれるように自分から進んでやっていこうと思いました。
- ・バスの中の絵で、傍観者もいじめをしていることとおなじということが分かりました。日常の当たり前を疑うことが考え直すきっかけになるんだと思いました。



人権参観日

今週の金曜日には、人権参観日を行います。本年度は、北校舎改修工事で廊下や教室が手狭なため2部に分けて参観を行います。ご不便をおかけしますが、ぜひご参観いただきますようお願いいたします。



10月20日(金)

13:15~14:00(5校時) (2年・4年)

14:05~14:50(6校時) (1年・3年・5年・6年)

15:15

一斉下校

学年	単元名	ねらい
1	となりのためき	「決めつけ」や「思い込み」で人を判断することの誤りに気づき、それを正していこうとする態度を育てる。
2	ちっともおもしろくない	身の回りの困ることや不当なことについて、みんなでお話し合い、解決していこうとする態度を育てる。
3	だいこんとにんじん	みかけや言動にとらわれず、個性や違いを認め合い、尊重し合っているまを受け入れようとする態度を身につける。
4	半日村	理不尽な環境を甘受するのではなく、行動した一平や仲間の子ども、村の大人たちの心情を共感的に理解し、地域の課題を協働して解決していこうとする態度を育む。
5	町の石ひ	差別に負けず地域の発展につくした先人の苦勞や願いに気づかせ、地域の一員として困難にも立ち向かい、互いに協力してよりよい地域社会をつくりたいという態度を育てる。
6	百日かせぎ	登場人物の様子や言葉から、それぞれの思いや生き方について考え、部落差別解消につながる自分の生き方について考える。

ご家庭でも、参観日の授業の様子やねらいについて、親子で話し合う機会を持っていただきたいと思ひます。そして、どのように日々の生活やこれからの生き方につなげていったらよいか考えてほしいと思ひます。誰かのせいにするのではなく、自分がどうしていくことが大切か考えられる北っ子の育成を目指していきます。